

復興支援委員会メンバーの研究実践例

三宅島噴火を事例として

生活、住まい、
その人らしい
「再建」を。



日本災害復興学会理事 復興支援委員会委員長
特定非営利活動法人 YNF 代表理事
江崎太郎

YNF

日本災害復興学会について

日本災害復興学会とは

日本災害復興学会（英語名称：Japan Society for Disaster Recovery and Revitalization）は、災害復興学に関わる研究者や災害復興の実践者、メディア関係者らでつくる学会です。座して研究するのではなく、被災からの再生に取り組む人たちと手を結び、被災現場からのメッセージを全国に、次世代に伝え、やさしい社会を創り出すために力を尽くしていくことを目指しています。

同様の思いを持つ仲間が発起人となり、2007年度に日本災害復興学会の準備会が発足しました。発足を記念する最初の学会大会が2008年1月13日、1月14日の両日、関西学院大学で開催され、日本災害復興学会の活動が始まりました。

YNF

復興支援委員会について

●復興支援委員会.....被災者や被災自治体に対し、学会が有する知のストック（過去の被災体験や研究成果）を提供することによって、長期的復興支援に役立つ助言を行う特別支援班（タスクフォース）を編成するための「復興支援委員会」を設置する。

【復興支援委員会】

委員長

江崎太郎（特定非営利活動法人YNF）

副委員長：

津久井進（弁護士法人芦屋西宮市民法律事務所 弁護士）

宇都彰浩（宇都・山田法律事務所 弁護士）

委員：

岡本正（銀座パートナーズ法律事務所 弁護士）

鹿瀬島正剛（弁護士法人リーガル・プロ 代表弁護士）

坂口奈央（岩手大学地域防災研究センター 准教授）

中野明安（丸の内総合法律事務所）

永野海（中央法律事務所 弁護士）

湯井恵美子（一般社団法人福祉防災コミュニティ協会 福祉防災上級コーチ）

福留邦洋（岩手大学地域防災研究センター 教授）

マリ・エリザベス（東北大学災害科学国際研究所国際研究推進オフィス 准教授）

松田曜子（京都大学防災研究所 准教授）

宮下加奈（一般社団法人減災・復興支援機構 専務理事/ネットワーク三宅島 代表）

山下弘彦（日野ボランティア・ネットワーク）

吉江暢洋（川上・吉江法律事務所 弁護士）

YNF

三宅島視察の様子



大会での発表

日本災害復興学会 2025 阪神大会 日程	
1日目：10月11日（土）8：55～17：50	
【開会あいさつ】 8：55～9：00 会場 H-301	
【分科会1】9：00～11：20 会場 H-301 能登半島地震における復興に向けた課題と新たな復興法システムの構築	【分科会2】9：00～11：20 会場 H-201 阪神・淡路大震災の災害復興から30年～都市づくりから人へ、災害復興における「決めきれなさ」と向き合う力ーネガティブ・ケイパビリティと生活再建の可能性
昼休憩 11：20～12：10	
【分科会3】12：10～14：30 会場 H-301 能登半島地震被災地の住民主体・参画による復興を考える（地域力が疲弊、縮小するなかで南海トラフ地震等巨大災害への備えを考える）	【分科会4】12：10～14：30 会場 H-201 三宅島の火山災害と長期避難の経験から考えるー広域避難・離島防災・子ども支援のこれから
休憩 14：30～14：40	
【分科会5】14：40～17：00 会場 H-301 みやぎボイスを源流とする被災地対話連携実践研究会 ラウンドテーブル voiceのvoicesをvoiceする	【分科会6】14：40～17：00 会場 H-201 災害復興の再考：多義的なケアの視点から
休憩 17：00～17：10	
【全体会】17：10～17：50 会場 H-301	
登壇者：分科会1～6企画担当者 司会：高原 耕平	



車座トークについて



車座トーク@久留米

各地の被災現場から

熊本地震被災地で4回車座トーク

復興支援委員会は、熊本地震発生から1か月のタイミングで熊本市において4回の車座トークを開催した。

第一陣は5月14日～

15日、本村副会長ら学会員6人や岩野・土砂専門家や司法士に参加してもらった。第二陣は6月1日に野呂総務委員長ら学会員3人が訪問し、延べ100人近い住民の参加があった。

車座トークでは、学会で作成した冊子「被災したときに」を手引きに使って、被災者の方々の実践に答える形で進めた。参加した住民からは「このタイミングで専

門家から生活再建のあれや各種支援策を聞くことができ良かった」という感想が述べられた。

車座トークの開催に協力いただいた関係者に感謝したい。

復興支援委員会副委員長・君嶋祐助

車座トーク in 厚真レポート

定池祐孝（東北大学災害科学国際研究所）

2019年春、胆振東部地震の被災地では、走り続けている町内の支援者に疲れが現れていた。「消費」「搾取」としか思えない取材や調査が依然として続いていた。厚真の方々に「先輩被災地」「与える専門家」の姿を見てもらいたいと、兼にも手をかかろうと厚真を受け、被災地訪問や被災地視察などの現地視察を行った。

6月30日に日本災害復興学会支援委員会主催、厚真町役場・厚真町社会福祉協議会の後援、北海道NPO

サポートセンターの協力を得て、「車座トーク in 厚真 これからのひと・まち・くらし」が実現した。

学会からは10人が参加。午前中は町役場と社会福祉協議会から胆振東部地震の概況、災害ボランティアセンターや生活支援相談員の活動について説明を受け、被災地訪問や被災地視察などの現地視察を行った。

午後の車座トークでは、町民や学生・厚真町役場の職員などが参加し、仮設住宅での暮らし、報道対応、

3回開催された「あつま復興未来会議」では、学会の上村副会長が講演に招かれ、「住まい再建サポートチーム」の立ち上げに際して、宇都宮委員長委員長の助言を受けるなどの展開も広がっている。ご反響をいただいた。支援委員会、学会事務局、関係各所に改めてお礼を申し上げます。

